

栃木県立学悠館高等学校 JRC（青少年赤十字）部



命を守りあう大切さを伝えよう

～今からできる災害への備え。知識の片隅に防災を～

気づき・考え

近年、全国各地で災害が多発している今、災害時に起こりうる問題点を見つけ、いざという時のためにどんな“備え”が必要なのか、1から考えなおしました。

もしも・もしかしたら

共助

- ・学校が避難所になったら
- ・けがをしている人がいたら
- ・倒れている人を見つけたら
- ・避難所で、災害時要支援者の方々がいたら
- ・避難所の運営に、協力できることがあるかもしれない

自助

- ・避難することになったら、何を持ってばいい？
- ・避難する途中でケガをしたら
- ・より安全なルートで避難するには

思いやり 優しさ

- ・避難所にいる高齢者・乳幼児・妊婦さん・子供たちのために
- ・紛争や災害など、苦しんでいる人たちのために
- ・赤十字の活動に自分たちも協力するために
- ・知らない町に来た観光客・外国人・
- ・モバイルの使えない高齢者・子ども達にもわかるように
- ・どこかの誰かのために、献血の重要性を知らせるために
- ・川のごみが海に流れていかないように

実行する

本年度の活動指針は「今からできる備えを」。命を守りあうことの大切さを多くの方々に伝えるため、本校JRC部は数多くの防災啓発活動や奉仕活動に取り組んできました。

本校JRC部の活動

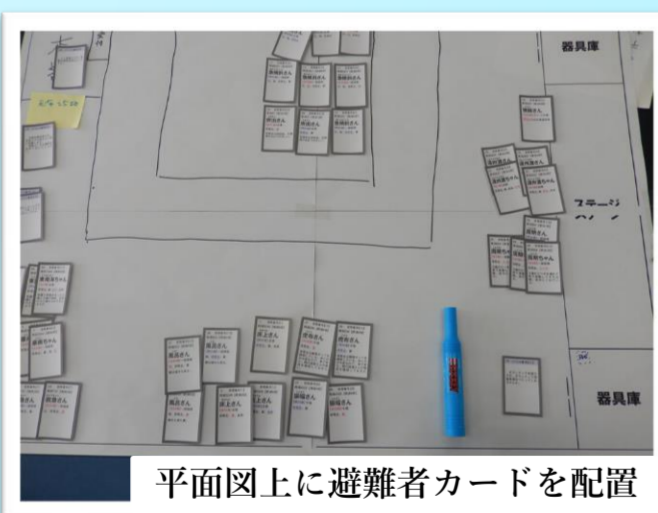
- ◆ 防災講座の開催 避難所運営ゲーム（HUG）研修
- ◆ 校内防災啓発活動 校内避難訓練時の発表
- ◆ 赤十字救急法AED講習会の開催
- ◆ 赤十字救急法の伝達
セルフ救急法・マネキンヘッドを使った練習・手製救急法ハンドブックの配布
- ◆ 防災講座 東日本大震災を忘れない ～災害への備えを考える～
- ◆ 災害時要支援者のため「飽きない&おいしい非常食レシピ本」の考案と制作
- ◆ 募金活動 ウクライナ人道危機救援金
海外たすけあい募金
- ◆ ピクトグラム入り防災観光マップの作成及び周知
- ◆ 河川清掃 巴波川530大作戦（うずまがわゴミゼロ）
- ◆ 献血出前講座の企画

防災講座

「人を想う優しさ・被災者に寄り添う気持ち」を体感してもらう、備えることの大切さや救急法の知識を学んでもらうために開催した防災講座。当日は、コロナ禍での開催を考え、受講対象者は校内の生徒・先生方に限定して行いました。



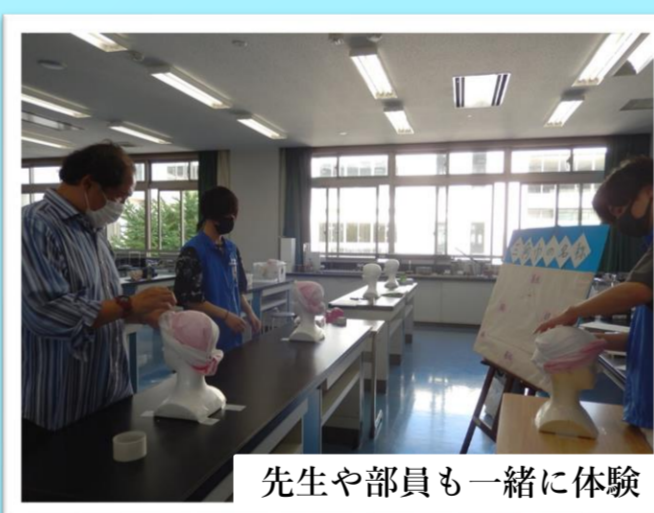
避難所運営ゲーム（HUG）研修風景



平面上に避難者カードを配置



頭頂部の応急手当の練習風景



先生や部員も一緒に体験



本校生徒も多く参加



被災者のメッセージを朗読



ボランティア活動の体験発表

避難所運営ゲーム（HUG）研修

避難者カードには、情報として避難者が抱える様々な事情が書かれており、避難者の状況に応じて適切に配置する必要があります！
次々にいるんことが起こるので、すぐに判断してより良い体制を整えなくてはならず、迷うことも多く避難所運営の大変な苦労がわかりました。

赤十字救急法の伝達

感染対策のためマネキンヘッドを使用し、三角巾を用いた応急手当を参加者と一緒に練習しました。

東日本大震災を忘れない ～災害への備えを考える～

東日本大震災を風化せないために、当時の被災地ボランティアの話を聞き、先輩たちが考えた様々な「気づき」を知ることができました。また、日赤教材の「まもるいのち ひろめるぼうさい」より、被災された方のメッセージの朗読もしました。
今回初めて話を聞いた部員は、「同じ悲しみを繰り返さないためにも風化させてはいけない。今後も関心を持ち続け発信していきたい。」と改めて“伝えることの大切さ”を感じることができました。



河川清掃



ウクライナ人道危機救援金



海外たすけあい募金



これからの活動「伝える→繋ぐ」

- これからも災害へ備えることの大切さ・防災知識を発信していき、次はその知識を学んだ人が家族や他の人にも伝えられるよう、本やDVDなどを作成し配布していく。
- 赤十字職員による「献血出前講座」の企画：福島県JRCメンバーと学んだ献血の重要性を多くの人に知らせたい。
- リモートを使うなど、コロナ禍でもできる新しいやり方を考え、地域の方々と再び新しい形で防災講座を実施したい。

栃木県立学悠館高等学校は、単位制の定時制高校です。JRC部は、創立時に創部。今年で18年目を迎えます。
平成19年度から防災活動に取り組み、東日本大震災発生時には、被災地ボランティアも行いました。また、平成20年から地域の方々をお迎えして、JRC部主催の防災講座を実施しています。